

戦略的「しかけ」 <算数科>

「匠タイム」の設定

6年生

「匠タイム」は学習内容について自分に合った方法で習熟を図る時間です。知識・技能に重点を置いた授業において、授業構成を工夫し、**習熟**と**ふり返りの時間を30分確保**しています。学習調整力、メタ認知力の強化につながるように、めあて→ふり返りにも「匠」を活用しています。



みんなのめあてを共有
し、可視化。



基準が明確に示された目標に向けて学習し、ふり返ることで達成感を得て、次の学習への意欲につなげることで自己肯定感を育みます。

自分の目標に合った学習方法を自己決定し、匠タイムを充実させます。

単元を通して、ふり返りを
ポートフォリオのように残
します。

子ども“も”单元を見通す

指導者側だけではなく、子どもも
単元全体を見通し、前後の関係性
を見出せるようにロイロノートを活
用しています。社会科では「まとめ
シート」を活用し、単元で学んだ内
容やふり返りを1枚のシートにまと
められるようにしています。

第6学年算数科学習指導案

京都市立錦林小学校

指導者 中川 拓哉

1日 時 令和7年5月20日(火) 第5校時(13:45~14:30)

2学年・組 第6学年1組(31名)

3単元名 ④分数×分数

4戦略的「しあげ」

○「匠タイム」(習熟の時間)の設定

重点	A 主体性		B 協働性	
生徒指導	自己存在感の感受	共感的な人間関係の育成	自己決定の場の提供	安心・安全な風土の醸成
内容	<p>「匠タイム」:本時の学習内容について自分に合った方法で習熟を図る時間</p> <ul style="list-style-type: none">・知識技能に重点を置いた授業において、従来の課題把握から集団解決までの時間を15分に收め、習熟とふり返りの時間を30分確保する。・習熟の時間の学習方法を複数提示し、その時間の自分に合った方法を考え、選び、実践する。・自分の実践によって、めあてに対してどの程度の達成度を得たのかを、「わかる」「できる」「匠」の三段階でふり返る。			
ねらい	<ul style="list-style-type: none">・適応題による習熟の時間を十分に確保することで、算数科の学力定着、向上を図る。・習熟のための学習方法を複数提示することで、自分のその時間における達成度に合った方法を考え、決めることができる自己調整力の向上を図る。・自分の達成度を三段階で評価することでメタ認知能力の向上を図り、今後の学習方法の改善に役立てられるようにする。			

6 本時について

(1)目標

小数と分数が混合したかけ算の仕方を理解し、その計算ができるようにする。

(2)展開

○学習活動・児童の反応 ★戦略的しきけ	◇支援 *留意点 個別支援
<p>○前時までのふり返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分数同士のかけ算の学習をしました。 ・帯分数を含む計算の仕方を考えました。 <p>○課題把握</p> $0.7 \times \frac{1}{3} \quad \frac{5}{6} \times 1.4 \quad 1.3 \times \frac{4}{9} \times 3$ <ul style="list-style-type: none"> ・小数や整数も含んでいる。 <p>○めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 整数、小数、分数が混じったかけ算のしかたを考えよう。 </div>	<p>*前時までの学習を簡単にふり返ることで、本時の課題について把握できるようにする。</p>
<p>○自力解決→集団解決</p> $0.7 \times \frac{1}{3} = \frac{7}{10} \times \frac{1}{3}$ $= \frac{7 \times 1}{10 \times 3}$ $= \frac{7}{30}$ $\frac{5}{6} \times 1.4 = \frac{5}{6} \times \frac{14}{10}$ $= \frac{5 \times 7}{6 \times 5}$ $= \frac{7}{6}$ $1.3 \times \frac{4}{9} \times 3 = \frac{13}{10} \times \frac{4}{9} \times \frac{3}{1}$ $= \frac{26}{15}$	<p>◇どうすれば解答できそうか、方法の見当を立てられるように促す。</p> <p>*時間内に答えが出なくてもよいことを伝え、安心感を与えつつ、どこで困ったかを理解できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・整数や小数を分数になおして計算するとよい。 ・3つの数の計算になんでもやり方は同じ。 ・約分も忘れずに行う必要がある。 </div>

★「匠タイム」

【学習内容】

- ①教科書 練習問題
- ②教科書 「もっと練習」
- ③計算ドリル
- ④プリント
- ⑤ミライシード
- ⑥自作問題

【学習方法】

- ①一人で
- ②ペアで
- ③匠を目指して

○ふり返り

「わかる」：授業の内容を大まかに理解し、問題に向かうことができた。

「できる」：授業の内容を理解し、問題を正確に解くことができた。

「匠」：授業の内容を理解し、まわりの人が理解できるように解法を説明することができた。

◇まず何から始めるのか悩まないように、学習内容

①には必ず取り組むことを伝える。

*自分に合った学習内容と学習方法を選ぶことの重要性について伝えることで、ふり返りの際に本時の自分の取組を客観的に評価できるようにする。決

▲学習方法の選択で悩んでいる場合は、そこまでの到達度から本人に合った内容を提示する。また、ペアリングも意図的に行い、前向きに問題に臨むことができるようとする。

*3つの段階の基準を示すことで、本時の自分の取組を客観的に評価できるようにする。

◇本時の達成度によって、次回以降の意欲につなげられるように、頑張りを認める声かけを行う。

◇本時の達成度を教科書やノートに記しておくことで、テスト勉強や復習の際に内容を選択する助けるようになる。

(3)評価

【知①】 小数と分数が混合したかけ算の仕方を理解し、その計算ができる。

「おおむね満足できる」状況と判断できる「発表・ノートへの記述」

・小数と分数が混合したかけ算の仕方を理解し、自分の言葉で説明している。

・より多くの問題を正しく解くことができている。

(4)板書計画

5／20 ④分数×分数

整数、小数、分数が混じったかけ算のしかたを考えよう。

$$\begin{aligned}0.7 \times \frac{1}{3} &= \frac{7}{10} \times \frac{1}{3} & \frac{5}{6} \times 1.4 &= \frac{5}{6} \times \frac{14}{10} & 1.3 \times \frac{4}{9} \times 3 &= \frac{13}{10} \times \frac{4}{9} \times \frac{3}{1} \\&= \frac{7 \times 1}{10 \times 3} & &= \frac{5 \times 7}{6 \times 5} & &= \frac{26}{15} \\&= \frac{7}{30} & &= \frac{7}{6}\end{aligned}$$

- ・整数や小数を分数になおして計算するとよい。
- ・3つの数の計算になってしまってやり方は同じ。
- ・約分も忘れずに行う必要がある。

匠タイム

【学習内容】

- ①教科書 練習問題

【学習方法】

- ①一人で

- ②教科書 「もっと練習」

- ②ペアで

- ③計算ドリル

- ③匠を目指して

- ④プリント

- ⑤ミライシード

- ⑥自作問題

7 単元について

(1)目標

- ・分数をかける意味を理解し、計算するとともに、分数の乗法を適用していろいろな問題を解決することができるようとする。
- ・数の意味と表現、計算について成り立つ性質に着目し、計算の仕方を多面的に捉え考えることができるようとする。
- ・分数の乗法について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

(2)評価規準

知 技	①分数をかける計算の意味を十分に理解し計算することができ、逆数の意味や分数の計算においても交換法則や結合法則、分配法則が成り立つことを理解している。
思 判 表	①分数をかける計算の意味や仕方を、筋道立てて考え、説明している。
態	①分数をかける計算に進んで取り組もうとし、分数のかけ算を活用して、いろいろな問題を解決しようとしている。

(3)指導計画

【☆戦略的「しかけ」△手立て！配慮事項 他教科等との関連 ◇個別支援】

時	○学習活動 ◆主な発問 子どもの反応	指導のポイント	評 価
1	○分数をかけるかけ算に関心をもち、(分数)×(単位分数)の場面を式に表し、乗法の意味について考え、説明する。 ◆ $4/5 \times 1/3$ の式になるわけを説明しよう。 ・かける数が分数になっても、整数や小数のときと同じようにかけ算の式で表すことができます。	△数直線図や関係図を用いて式の意味を考え、説明できるようにする。	思 ① 態 ①
2	○(分数)×(単位分数)の計算の仕方を考え、説明する。 ◆ $4/5 \times 1/3$ の計算の仕方を考えよう。 ・ $1/(5 \times 3)$ m ² の何個分かを考えて計算することができました。 ・ $4/5$ の3等分で考えると、 $4/5 \div 3$ で計算することができました。 ・ $1/3$ を整数になおして計算することができました。	△面積図を使って、 $1/3$ dL では、 $1/(5 \times 3)$ が4個分であることに気付かせる。	思 ①
3	○(分数)×(分数)の計算の仕方を考え、説明する。 ◆ $4/5 \times 2/3$ の計算の仕方を考えよう。 ・分数のかけ算では、分母どうし、分子どうしを、それぞれかけければ、計算できることが分かりました。	△ $2/3$ dL 使ったということから面積図を3等分した2つ分の広さであることに気付かせる。 ☆匠タイム	思 ① 態 ①

4	<p>○(整数)×(分数)や(帯分数)×(帯分数)の計算をする。</p> <p>◆整数を分数におしたり、帯分数を仮分数におしたりして計算しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整数は分母を1とした分数におして計算することができました。 ・帯分数は仮分数におして計算することができました。 ・途中で約分できるところは約分をして計算することができました。 	<p>△整数は分母が1の分数であることにこれまでの学習から気付かせる。</p> <p>△整数や帯分数は仮分数におして計算するとよいことに気付かせる。</p> <p>△途中で約分して計算できることに気付かせる。</p> <p>☆匠タイム</p>	知 ①
5 本 時	<p>○整数や小数、分数が混合したかけ算の仕方を考え、説明する。</p> <p>◆整数、小数、分数が混じったかけ算の仕方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小数も分数におして計算することができました。 ・分数だけの式にすると、簡単に計算することができました。 	<p>△0.1は1/10であることを基に0.7は7/10におして計算するとよいことに気付かせる。</p> <p>☆匠タイム</p>	知 ① 態 ①
6	<p>○被乗数と積の大小関係を調べ、乗数の大きさによることを理解する。</p> <p>◆かける数が分数のときの、かける数と積の大きさの関係を調べよう。</p> <p>かける数>1のとき、積>かけられる数</p> <p>かける数=1のとき、積=かけられる数</p> <p>かける数<1のとき、積<かけられる数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かける数と積の大きさの関係は、かける数が分数のときにも成り立つことが分かりました。 	<p>△かける数が整数や小数のときに成り立っていた積とかけられる数の関係が分数でも成り立つことに着目させるようになる。</p> <p>△実際に計算し、積とかけられる数の関係を確かめるようになる。</p>	知 ①
7	<p>○分数のかけ算の仕方を理解し、計算の練習をする。</p>	<p>△時間差、到達度の差を考慮して、補充問題及び発展問題を用意しておく。</p> <p>☆匠タイム</p>	知 ①
8	<p>○辺の長さが分数の場合にも、面積や体積の求積公式が使えることを理解する。</p> <p>◆辺の長さが分数のときにも、面積や体積の公式が使えるかを調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積や体積は、辺の長さが分数であっても、公式を使って求めることができます。 	<p>△図に表して、辺の長さが分数になっても面積や体積の公式が使えることを確かめるようになる。</p>	知 ①
9	<p>○分数で表された時間について理解し、それを使った問題を解く。</p> <p>◆分数で表された時間について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間は60分なので60分の3/4倍として考えると求めることができます。 ・分数で表された時間を使うと速さの問題も解くことができました。 	<p>△分数で表された時間と分との関係は、割合の考え方を用いていることを、関係図を使って確かめる。</p> <p>△時間を表した図を基に視覚的に全体の量を捉えやすくする。</p>	知 ①

I 0	<p>○逆数の意味を理解し、逆数を求める。</p> <p>◆積が1になる2つの数を見付けよう。</p> <p>・2つの数の積が1になるとき、一方の数を他方の数の逆数ということが分かりました。</p> <p>・分数の逆数は、分母と分子を入れかえた分数になります。</p> <p>・整数や小数も分数に直すと、逆数が分かります。</p>	<p>△「逆数」という用語について知る。</p> <p>△整数や小数の逆数の求め方について話し合い、整数や小数でも逆数があることに気付くようになる。</p> <p>☆匠タイム</p>	知 ①
I I	<p>○分数の場合にも交換法則や結合法則、分配法則が成り立つことを確認し、それらを適用して工夫して計算する。</p> <p>◆分数のときにも、計算のきまりが成り立つことを確かめよう。</p> <p>・計算のきまりは、分数のときにも成り立ちました。</p> <p>・分数でも計算のきまりを使って、工夫して計算することができました。</p>	<p>△これまでに学習してきた計算のきまりについて丁寧に振り返るようにする。</p> <p>△計算のきまりを使って工夫して計算するよさに気付くようになる。</p>	知 ①
I 2 · I 3	<p>○「学びのまとめ」に取り組み、学習内容が定着しているかを確かめる。</p> <p>○単元における学びを振り返る。</p>	<p>△今までの学習を振り返ることができるようになる。</p> <p>△「やってみよう」は学習内容の定着状況や興味・関心に応じて取り組めるようになる。</p> <p>☆匠タイム</p>	知 ①